

市立図書館相武台分館の 利用傾向等からみた分析結果

目次

- 1 はじめに
- 2 公共図書館における「分館」の位置付け及び役割
- 3 分館の施設概要
- 4 分館のサービス概要
- 5 統計からの分析（令和3年度）
- 6 利用者アンケートの回答結果からの分析
- 7 まとめ

1 はじめに

市立図書館相武台分館（以下、「分館」という。）は、昭和 54 年の開館以来、これまで地域の多くの皆様に身近で親しみやすい学びの場として利用され、また、読み聞かせのボランティア団体と市との協働の場にもなっている。

一方、本市では多くの公共施設の老朽化が進み、財政状況が一層の厳しさを増す中、全ての施設を現状のまま維持し続けることが困難な状況であり、社会のニーズや時代の変化に合わせたサービスの提供方法や施設の在り方の見直しが求められている。こうしたことから、分館については、令和 3 年 4 月に策定した「相模原市行財政構造改革プラン」において、図書館ネットワークによるサービス環境の確保に伴い、「第 2 期」中の廃止に向けた取組を実施し、相武台地区内には、公民館や学校などを活用した図書室機能の確保を検討することが示されている。

本資料は、今後、地域の皆様とともに検討を進めるにあたり、意見交換などの参考資料とするため、図書館統計や利用者アンケートをもとに、分館の利用状況や傾向について分析した結果をまとめ、図書館法第 7 条の 4 の規定に基づき、情報提供するものである。

2 公共図書館における「分館」の位置付け及び役割

（1）図書館法

第 3 条第 5 号において、「分館、閲覧所、配本所等を設置し、及び自動車文庫、貸出文庫の巡回を行うこと」としている。

（2）図書館の設置及び運営上の望ましい基準

（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）

「第一 総則」の「二 設置の基本」において、「1 市（特別区を含む。以下同じ。）町村は、住民に対して適切な図書館サービスを行うことができるよう、住民の生活圏、図書館の利用圏等を十分に考慮し、市町村立図書館及び分館等の設置に努めるとともに、必要に応じ移動図書館の活用を行うものとする。」としている。

（3）相模原市立図書館条例

第 1 条において、図書館法の規定に基づき、本市に図書館を設置するとしており、第 2 条第 2 項において、相模原市立図書館の分館として位置付けている。

(4) 定義

図書館法等において明確な分館の定義はないが、辞書的な定義として、「本館から離れた場所で補助的な図書館サービスを行う、独立施設を持つ図書館」であり、「分館は近隣住民の図書館に対するイメージを形作る場所として重要であり、近隣住民のニーズに合わせたサービスや住民とのコミュニケーションが重視される」と解説されている¹。

3 分館の施設概要

開館年月日	昭和 54 年 4 月 1 日 (土地、建物ともに住友不動産(株)からの寄付)
所在地	南区新磯野 4 丁目 8 番 7 号
構造	鉄筋コンクリート造 平屋建て
建物延面積	315.0 m ²
敷地面積	593.2 m ²
開館時間	午前 9 時～午後 5 時

4 分館のサービス概要

市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館（以下、「地域図書館」という。）と比較すると、施設面積やそれに伴う蔵書規模、職員数等の資源は小さいものの、図書館法の規定に基づき設置された図書館として独立した施設を持ち、資料の収集や提供、レファレンスサービス²等の基本的なサービス³を行うとともに、地域に根差したサービスとして、ボランティア団体と市との協働によるおはなし会の開催や、集会室の貸出などを実施している。

1 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会、『図書館情報学用語辞典』，（丸善出版,2020）,p.222

2 利用者の相談に応じて、必要とする資料や情報を提供し、学習や調査・研究の支援を行うサービス

3 資料の収集・提供（図書、雑誌、新聞等）、貸出サービス、予約・リクエスト、レファレンスサービス、図書館資料の相互貸借（県内外）、インターネット利用、集会室利用（読書・自主学習等）、行政資料情報等の閲覧、複写サービス、行事開催、寄贈資料の受付 など

また、公民館等図書室と比較すると、分館が図書館法に基づく基本的なサービスを行っているのに対し、公民館等図書室は貸出等の資料利用の機能が主となっている。

5 統計からの分析（令和3年度）

（1）蔵書の傾向

分館の蔵書数は 43,167 冊で、分類別に蔵書構成比を見ると、一般書が 24,970 冊（57.8%）、児童書が 18,197 冊（42.2%）となっている。地域図書館と比較すると、蔵書に占める児童書の割合が高いことが特徴である。

[表 1]

蔵書の総数は地域図書館より少ないものの、分類としては各ジャンルの図書資料を所蔵している。

また、公民館等図書室と比較すると、分館は公民館等図書室の平均（17,441 冊）の約 2.5 倍の蔵書があることと、図書だけではなく、雑誌・新聞を購入し提供している点が異なっている。

[表 1] 蔵書構成（冊） ※（ ）は構成比%

	蔵書数	一般書	児童書
分館	43,167	24,970 (57.8)	18,197 (42.2)
地域図書館	977,069	748,703 (76.6)	228,366 (23.4)

（2）貸出登録者の傾向

分館の貸出登録者数は 4,531 人で、地区別に見ると、相武台地区在住者が約 70%を占めている。

貸出登録者を年代別に見ると、70 歳代以上の割合が 28.2%と最も高く、次いで 40 歳代（14.7%）、60 歳代（10.8%）の順となっている。市全体の貸出登録者数の割合と比較すると、70 歳代以上の割合が 12.6 ポイント、60 歳代が 1.6 ポイント高く、シニア世代の登録者の割合がとりわけ高い傾向にある。

また、7 歳～18 歳の青少年層の登録者の割合は、相武台地区の年代別人口割合と比較すると 3～4 ポイント高く、多く利用されていることがわかる。一方で、19～29 歳の割合は 2.5 ポイント低く、学生や若年層の社会人の世代の登録が少ない傾向にある。[表 2] [表 3]

年代別人口割合では、相武台地区は市全体の割合と比較すると、70 歳代以上の割合が 7.4 ポイント高くなっており、高齢化が進む地区の人口状況が登録者の割合にも反映されていると言える。[表 3]

[表 2] 登録者の年代別傾向 (%)

年代	-6	7-12	13-18	19-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
分館	2.8	8.0	7.2	8.0	10.0	14.7	10.4	10.8	28.2
市全体	2.6	7.6	8.2	16.0	12.4	16.3	12.2	9.2	15.6

[表 3] 相武台地区の年代別人口割合 (%)

年代	-6	7-12	13-18	19-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
相武台地区	3.7	3.8	4.3	10.5	10.0	13.9	13.9	12.3	27.7
市全体	5.0	5.0	5.2	11.9	11.5	15.4	14.6	11.1	20.3

※ [表 2] 及び [表 3] の百分率の計算では、小数点第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。

(3) 貸出利用の傾向

分館の貸出冊数の推移を見ると、コロナ禍による臨時休館等の影響を受けほぼ横ばいであった。令和 3 年度は 91,530 冊で、令和 2 年度に比べ、大幅に増加し、市全体の傾向と同様、令和元年度の実績を上回った。[表 4]

また同様に、令和 2 年度の方館の貸出者数は 23,926 人で、前年比 87.1% と減少したものの、市全体 (前年比 83.1%) と比較すると、減少幅は抑えられていた。令和 3 年度は 27,137 人と令和元年度と同水準となった。[表 5]

[表 4] 貸出冊数 (冊) ※ () は開館日 1 日当たり

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
分館	87,517 (338)	79,102 (330)	91,530 (317)
市全体	2,316,641 (6,386)	1,954,085 (5,684)	2,425,103 (5,791)

[表 5] 貸出者数 (人)

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
分館	27,461	23,926	27,137
市全体	701,109	582,738	712,862

(4) レファレンスサービスの傾向

令和3年度のレファレンスサービスの受付数は3,550件で、コロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度と比較すると120.4%となった。地域図書館（前年比114.6%）よりも増加幅は大きく、令和元年度の水準に戻っている。

また、地域図書館と比較すると、レファレンスサービスに利用する参考図書の蔵書冊数や、対応する職員数は少ないものの、職員一人当たりの受付件数が507件と多いことも特徴となっている。〔表6〕

〔表6〕レファレンスサービスの受付数（件） ※（ ）は、職員一人当たり

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
分館	3,496 (499)	2,948 (421)	3,550 (507)
地域図書館	27,934 (197)	18,222 (122)	20,889 (137)

(5) おはなし会の開催状況

本市の図書館では、子どもが読書の楽しさを知るきっかけづくりとして、乳幼児と保護者、4～12歳の子どもを対象にした童話、絵本、紙芝居等のお話や読み聞かせを行っている。

分館においても、読み聞かせのボランティア団体（2団体）との協働で「おはなし会」を開催し、例年、年間60回以上の開催回数、800人以上の参加者実績があるが、コロナ禍の影響により、令和元年度末から令和3年度当初にかけて事業を休止し、それ以降は「三つの密」が発生しない工夫や人数制限、消毒の徹底等、感染症対策を講じながら、段階的に再開している。〔表7〕

〔表7〕分館におけるおはなし会の開催状況（回・人）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
開催回数	58	0	32
参加者数	772	0	211

6 利用者アンケート⁴の回答結果からの分析

令和4年度に実施した利用者アンケートをもとに、分館の回答者と、市全体の回答者の回答結果を比較し、特徴となる部分を抽出した。

(1) 利用頻度

「週に1～2回程度」の項目が50.0%と最も高い。「ほぼ毎日」(4.4%)、「週に3～4回程度」(5.6%)も合わせると、毎週1回以上利用している方が60.0%と半数を超えており、市全体の回答(35.1%)と比較すると24.9ポイント高い。[表8]

[表8] 利用頻度 (%)

	ほぼ毎日	週に3～4回程度	週に1～2回程度	計
分館	4.4	5.6	50.0	60.0
市全体	1.3	4.1	29.7	35.1

(2) 利用目的

「本を借りる・返す」の項目が91.1%と最も高く、市全体の回答とも共通している一方で、「館内で雑誌を読む」(20.0%)、「館内で新聞を読む」(14.4%)、「調べものをする」(16.7%)など、館内に滞在して過ごす項目の割合については、市全体の回答より高い。また、「予約・リクエストをする」(40.0%)の項目は、市全体の回答より10ポイント高いことが特徴である。[表9]

[表9] 利用目的 (%) ※複数回答

	本を借りる・返す	館内で雑誌を読む	館内で新聞を読む	調べものをする	予約・リクエストをする
分館	91.1	20.0	14.4	16.7	40.0
市全体	97.0	16.5	7.1	13.8	30.0

4 利用者アンケートは、概ね高校生以上の利用者を対象に、約10日間、1日当たりの配布枚数を地域図書館30枚程度、相武台分館10枚程度、公民館等図書室5枚程度とし、各カウンターの窓口にて、アンケート用紙を手渡し、当日もしくは後日来館時に提出する方法で実施した。また、同アンケートの回答フォームを市ホームページにも設置し、回答を受け付けた。

(3) サービスの満足度・重要度

市全体の回答と同様に、「図書館へのアクセス」、「職員の知識・対応」、「本の品揃え」の3項目が重要視（重要・やや重要）されており、かつ、満足度（満足・やや満足）においては、「図書館へのアクセス」「職員の知識・対応」は市全体の回答より9～11ポイント高い。[表 10]

[表 10] サービスの満足度・重要度（%）

		図書館へのアクセス	職員の知識・対応	本の品揃え
分館	満足度	84.3	83.1	47.2
	重要度	78.7	70.8	75.3
市全体	満足度	73.1	74.4	61.6
	重要度	78.6	74.3	82.8

(4) 図書館や公民館等図書室の利用が役立っていると思うこと

市全体の回答と同様に、「趣味や娯楽に役立つ知識・情報」（75.6%）、「家庭や生活に役立つ知識・情報」（54.4%）、「ゆっくりと余暇を過ごす」（45.6%）の3項目の割合が高かった。「ゆっくりと余暇を過ごす」は、市全体（35.9%）と比較し、9.7ポイント高い。

また、3項目に次いで割合が高かった「地域において親しみやすい場所」（36.7%）の項目については、市全体の回答（19.9%）と比較し16.8ポイント高く、全項目の中で最も差が大きかった。[表 11]

[表 11] 図書館や公民館等図書室の利用が役立っていると思うこと（%） ※複数回答

	趣味や娯楽に 役立つ知識・ 情報	家庭や生活に 役立つ知識・ 情報	ゆっくりと余 暇を過ごす	地域において 親しみやすい 場所
分館	75.6	54.4	45.6	36.7
市全体	81.2	51.7	35.9	19.9

(5) 今後図書館において積極的に取り組んでほしいこと

市全体の回答と同様に、「多種多様な資料の収集・提供」（46.7%）、「快適な読書環境の整備」（37.8%）の割合が高い。

また、「シニア世代へのサービスの充実」（37.8%）については、市全体の回答（25.9%）と比較し11.9ポイント高い。[表 12]

[表 12] 今後図書館において積極的に取り組んでほしいこと (%) ※複数回答

	多種多様な資料 の収集・提供	快適な読書環境 の整備	シニア世代への サービスの充実
分館	46.7	37.8	37.8
市全体	47.7	36.1	25.9

(6) 自由意見

自由意見の記載は 47 件あった。意見の内容を分類すると、「運営について」(48.9%) が最も多く、次いで「サービスについて」(34.0%)、「資料について」(21.3%) の順となっている。市全体の回答と比較し「運営について」の割合が高く、その理由として、分館の存続に関する意見が多く挙げられた。

[表 13]

[表 13] 自由意見 (%) ※1 件の意見内で、複数項目の回答あり

	運営について (うち分館の存続について)	サービスについて	資料について
分館	48.9 (46.8)	34.0	21.3
市全体	16.0	38.1	38.3

7 まとめ

令和元年度末から令和 2 年度にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館等の影響により、図書館全体で貸出等のサービスに係る利用量は減少した。令和 3 年度には回復傾向を示したものの、感染対策を行った上でのサービス提供となり、コロナ禍以前の水準には戻ってはいない状況である。

しかし、分館の利用も減少はしたものの、減少幅は相対的に小さく、地域の身近な図書館として、コロナ禍においても、基本的な図書館サービスを提供するという一定の役割を継続できたものと推察される。

減少幅が小さかった一因として、登録利用者の統計やアンケートの利用頻度の回答を踏まえると、日頃から分館を一定の頻度で利用される方が多いため、コロナ禍においても、館の状況や様子を承知した上で、一定数の継続利用があったと考えられる。

また、子どもの成長や発達、季節や興味に合わせて読み聞かせを行う「おはなし会」については、子どもの読書活動を支える重要な役割を担っており、子育て支援につながる取組として、より一層の充実が求められていることから、引き続

きボランティア団体と協働し、適切かつ効果的な実施に努めていく必要がある。

相武台地区は、全市の中でも高齢化が進んでいる地域であり、分館利用においても、70歳以上の貸出登録者が市全体と比較すると特に高い。

また、蔵書に占める児童書の割合が高いことや、コロナ禍以前は「おはなし会」を継続的に実施していたことから、子どもや子育て世代にとっても、身近で親しみやすい場所として利用されており、青少年層の登録者の割合も、地区の人口割合と比較すると高い傾向にある。

さらに、一定の貸出者数の維持やレファレンスサービスの利用傾向から、図書館までの移動や図書サービスの利便性の面で、身近で気軽に利用されていることが一つの特徴であると言える。

相模原市の図書館ネットワークにおいては、分館は地域における身近なサービス拠点の役割を担っており、かつレファレンスサービスや児童サービスなど、資料提供以外の基本的なサービスも享受できるという点が、分館の利便性を高めている。

これらの特徴を生かしながら、『第2次相模原市図書館基本計画』や『第3次子ども読書活動推進計画』における図書館の課題、及び少子化等の本市の地域課題も踏まえ、学習や情報の拠点、親しまれる居場所など、地域にとって身近な図書館としての分館の必要な機能を検討していくこととする。